

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液・細胞・排泄物など）を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテや保管されている試料（血液・細胞・排泄物など）を利用することにご了解いただけない方は、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

当院における膵癌根治術症例に認めたオリゴ転移についての後ろ向きコホート研究

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院

【研究機関の長】 杉山隆（病院長）

【研究責任者】 西 悠介（肝胆膵移植外科 医員・大学院生）

【研究の目的】

膵癌は未だ予後不良な疾患で、術後再発・転移を認めた場合は通常、全身化学療法が行われます。一方、転移巣に対して外科的切除を含む局所治療により長期予後が得られている症例も存在します。それらのなかにはいわゆるオリゴ転移とって、現在のところ定義は明確にされていませんが、少数の転移しか認めない症例も含まれていると考えられます。本研究は、予後不良な膵癌のなかでも、外科的切除を含む局所治療によって長期予後が得られる集団の有無または、それら予後に関わる因子の探索を目的としオリゴ転移に着目して行われます。

当院において 2009 年 8 月から 2020 年 12 月までに通常型膵癌に対する根治切除が得られ、かつ術前化学療法が行われていない手術症例で、術後に再発を認めた症例を対象に研究を行います。この研究は膵癌における有効な治療方法の検討を目的としたものであり、その結果は今後の診療にも役立てられると考えています。

【研究の方法】

(対象となる患者さん) 当院において2009年8月から2020年12月までに通常型膵癌に対する根治切除が得られ、かつ術前化学療法を行っていない方で術後に再発を認めた患者さん。

(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況 等

【個人情報の取り扱い】

収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

<試料・情報の管理責任者>

愛媛大学医学部附属病院肝胆膵移植外科 西 悠介

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院肝胆膵移植外科 西 悠介

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel: 089-960-5327